



「快適・信頼の新しい走り と地球環境の融合」の ために

富士重工業株式会社
代表取締役社長
森 郁夫

スバルは昨年、「スバル 360」の発売から50年という記念の年を迎えました。

そして今年、基幹車種である「新型レガシィ」を4月に米国で発表し、5月の日本での発売を皮切りに世界展開を進めております。

また、電気自動車「プラグイン ステラ」を国内市場において6月に発売いたしました。

レガシィは、初代発売以来20年にわたり、快適・安心に移動できるという「グランドツーリング」性能を一貫して追求してきました。5代目となる新型レガシィは、その性能を革新的に高める「グラ

ンドツーリング イノベーション」をコンセプトに、開発してまいりました。その革新のために、スバル独創のシンメトリカル AWD (All Wheel Drive) を核とした運転する愉しさを提供する「ドライバーズファン」、次に、パッケージングを一から見直した快適な居住空間と快適な乗り心地により、すべての乗員に移動の愉しさを提供する「パッセンジャーズファン」、さらに新世代 CVT 「リニアトロニック」の搭載などによる、環境と走りを両立させる「エコパフォーマンス」の3つをテーマに取り組み、「イノベーション」を実現いたしました。



レガシィ ツーリングワゴン

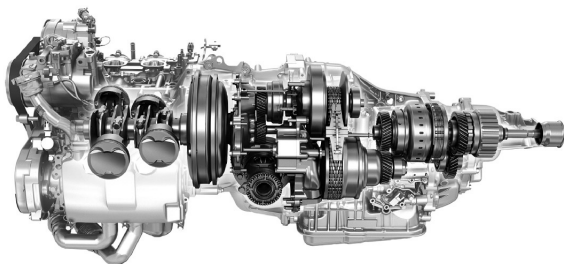
この新型レガシィの発売により、'07年6月の新型インプレッサ発売以降、スバルの新しい世代の登録車が揃い、世界中で高い評価をいただいております。

スバルは、'07年2月に発表した「新中期経営計画」で掲げたスバルのクルマづくりの方向性である「快適・信頼の新しい走り」と地球環境の融合」を具現化した商品として、これら新世代の商品群を開発してまいりました。その商品群の販売が順調であり、この商品づくりの方向性が世界中のお客様に認められ、評価いただいているものと考えております。

スバルの車は、高い走行安定性を持ち、また衝突安全性能にも優れた、水平対向エンジンを核とした左右対称のパワートレインとなる独創のシンメトリカルAWDという、理想的なレイアウトを持っております。

この素性のよさに加え、新型インプレッサ以降採用している走りと乗り心地を両立させる「SI-シャーシー」コンセプトにより「快適・信頼の新しい走り」を実現しております。

その「新しい走り」と「地球環境との融合」については、既存パワーユニットの絶え間ない改良に加えて、新型レガシィより搭載をいたしました、コンパクトで高効率のチェーン式を採用し、レスポンスに優れ、かつ燃費性能にも優れた新世代CVT「リニアトロニック」、そしてすでに昨年より展開している、水平対向エンジンの素性のよさを活かした「ボクサー・ディーゼル」などで実現しております。



リニアトロニック

また、シティコミューターとして最適なバランスをねらった電気自動車「プラグイン ステラ」も今年6月に販売を開始いたしました。



プラグイン ステラ

「安全」については、衝突安全面で、日本の自動車事故対策機構（NASVA）の実施した2007年度自動車アセスメントにおいてグランプリを獲得した「インプレッサ」に続き、2008年度は、「フォレスター」、「エクシーガ」が「自動車アセスメント優秀車08/09」を受賞しました。

新型レガシィも、米国保険業界の非営利団体である「IIHS」による安全性能評価において最高評価（2009 トップセーフティピック）を獲得し、また欧州の新車評価基準である「Euro NCAP」の安全性能総合評価で最高評価の5つ星を獲得するなど、世界中で高い評価をいただいております。

さらに、予防安全面ではこの9月に先進運転支援システム「アイサイト」をエクシーガに搭載いたしました。このシステムは、独自のステレオカメラと画像認識技術により、「プリクラッシュブレーキ」や「AT誤発進抑制制御」などの衝突被害低減と、「全車速域追従クルーズコントロール」などの運転負荷軽減を実現する、スバルの先進技術です。

こうした取り組みを今後さらに強化し、これまで以上にスバルの持つ強みを活かしたスバルならではの商品提案を行きます。そのために、昨年4月に発表いたしましたトヨタグループとのアライアンスを強化し、経営資源を、スバルらしさを十分に発揮しえる登録乗用車の開発・拡販に集中させ、お客様に「豊かな時間」「充実したライフスタイル」を提案していきます。

これからのスバルに、ぜひご期待ください。

以上